

## 第2章 本市の教育を取り巻く現状と課題

### 1 教育を取り巻く社会の動向

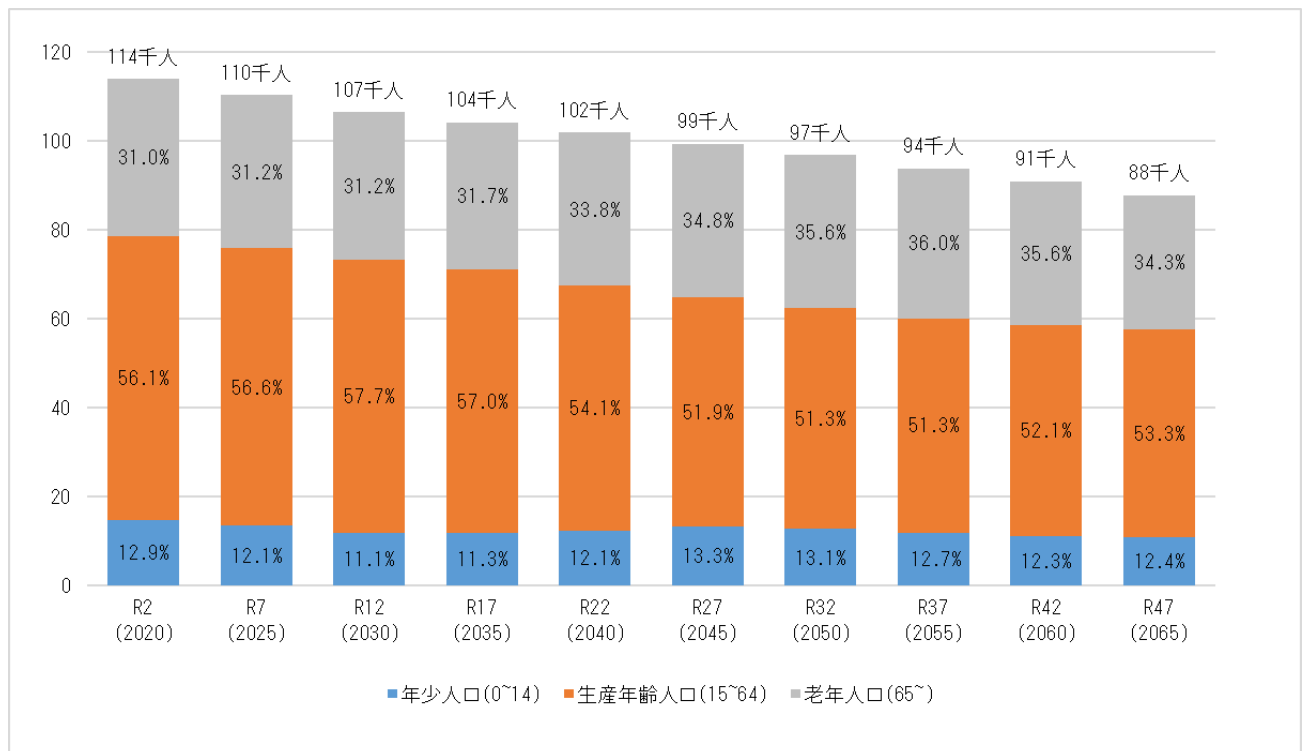
#### (1) 人口減少・少子化の進行

我が国の人口は、平成20年（2008年）をピークに減少が続いています。

特に生産年齢人口である15～64歳の人口は、2050年には現在の2／3に減少すると推計され、社会経済への深刻な影響が予測されています。

本市の総人口は、これまでほぼ横ばいで推移してきました。年齢別の人口を見ると、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15歳～64歳）については、今後、総人口とともに減少していくと予測されます。

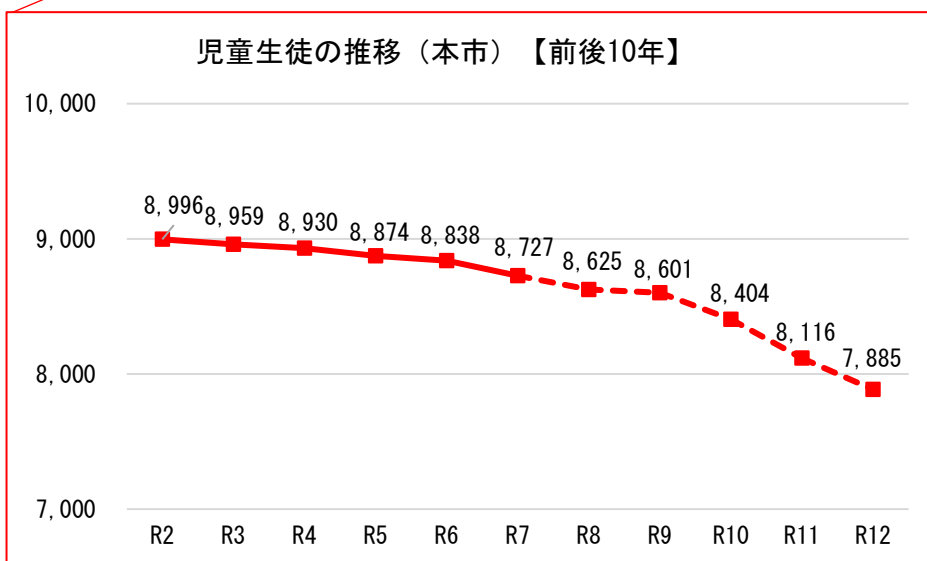
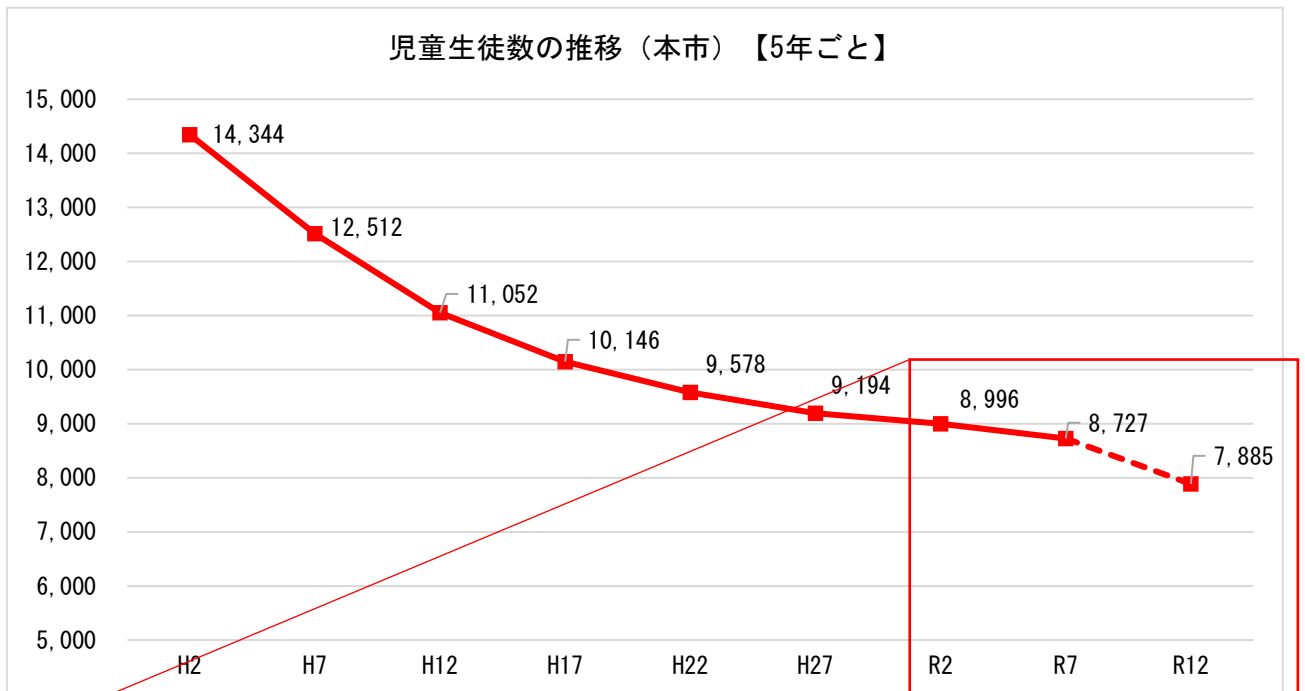
一方で、高齢人口（65歳以上）はすでに総人口の3割を超えており、少子高齢化のさらなる進行が予想されます。



資料：防府市人口ビジョン

## 第2章 本市の教育を取り巻く現状と課題

また、少子化に伴い、本市の児童生徒数も5年後の令和12年（2030年）には8千人以下まで減少する見込みです。



資料：学校教育課

## (2) 急速な技術革新とグローバル化の進展

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会「Society 5.0」が提唱され、生成AIをはじめとする技術革新が急速に進みつつあります。こどもたちには、将来、人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術を使いこなす能力が求められ、生活を豊かにし、革新的な方法で未来を切り拓くことが期待されています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、こどもたちの学習を支援するため、国の「GIGAスクール構想」に呼応し、本市においても全小・中学校の児童生徒に対して1人1台タブレット端末の配備を進めたことにより、遠隔・オンライン教育が進展し、学びの変容がもたらされました。

また、情報通信技術の進展により、グローバル化が加速し、国境を越えた経済的、政治的、社会的つながりが拡大しています。教育分野においても、グローバル化に対応できる人材の育成、諸外国との教育交流、留学生の受け入れなど、国際化が進展しています。このため、日本や生まれ育った故郷への愛着や誇りをもちつつ、異なる国の文化や多様な価値観を理解し、グローバルな視野で活躍するための資質や能力を育成することが一層重要となっています。

さらに、平成27年（2015年）に国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、世界各国で持続可能な社会づくりが進められている中、地球規模の課題を自らにかかわる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を育成することが求められています。

---

**SDGs** : Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。「地球上の誰一人として取り残さない」ことを理念とし、人類、地球およびそれらの繁栄のために設定された行動計画であり、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットで構成されている国際社会共通の目標。本計画には、SDGsの17目標のうち、10の目標が関わっています。



### (3) 将来の予測が困難な時代の到来

これから迎える時代は、その特徴である変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑性 (Complexity)、曖昧性 (Ambiguity) の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻や各地で生じる軍事紛争などによる国際情勢の不安定化は、まさに予測困難な時代を象徴する事態と言えます。

また、地球温暖化による気候変動やそれに伴う自然環境の変化、局地的な集中豪雨による風水害や地震などの自然災害は、社会や人々の暮らしに大きな影響を与えています。こういった危機に対応する強靭さを備えた社会をいかに構築していくかという観点は、これからの重要な課題です。

日本の高齢化率がピークを迎える 2040 年以降の社会を見据えたとき、現時点で予測される社会の課題や変化に対応して人材を育成するという視点と、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点の双方が必要となります。

### (4) 社会の多様化とこどもの権利利益の擁護

社会の多様化が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受することができる共生社会を実現することが重要です。

我が国では、成年年齢や選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたことにより、若者の自己決定権を尊重し、積極的な社会参画を促すものとなり、近い将来に社会の一員となるこどもたちにも、早期から社会に主体的に参画する態度を育む教育が必要となっています。また、令和 5 年 (2023 年) 4 月に施行された「こども基本法」において、こどもの権利利益の擁護及び意見表明などが規定され、教育施策においても、その当事者であるこどもの意見を十分に考慮した施策の展開が必要です。

また、経済先進諸国を中心に個人の幸せの追求についても多様化しており、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング (Well-being)」の考え方が重視されてきています。

## 2 本市の教育の状況

---

### (1) 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

本市の全国学力・学習状況調査の総合平均正答率は、全国平均をやや下回る状況にありますが、小・中学校の9年間の学びを通じた成長を経年で確認することができています。

今後も各種調査実施後の分析によって成果と課題を整理し、授業改善や学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の充実を図っていきます。

また、小学校と中学校の教育活動に系統性をもたせるため、地域協育ネットの仕組みを生かした研修等の取組を推進するなど、こどもの発達や学びをつなぐための連携力を強化していきます。

児童生徒にかかる諸問題への対応については、生徒指導主任研修会や教育相談担当者研修会を開催し、具体的な対応策等の情報共有を図ることで、未然防止、早期発見・早期対応の取組を行っています。

また、体力は、健康の維持や学び、成長に向かう意欲や気力に大きく関わっており、生きる力を支える重要な要素です。望ましい生活環境や食習慣を身に付けることができるよう、学校・家庭・地域が連携した取組を推進し、心身ともに健康で、未来をたくましく生き抜く力を育成していきます。

### (2) 地域ぐるみの教育の推進

本市では、市内全ての公立小・中学校がコミュニティ・スクールの機能を生かし、学校・家庭・地域が連携した教育活動やネットワークづくりを推進しています。

連携の再加速に向けた取組を通して、児童生徒参加型熟議や地域の特色を生かした活動が広がりを見せ、学校運営協議会や地域協育ネット協議会において、その評価・改善を行うことで、こどもたちの「ウェルビーイング (Well-being)」意識が高まっています。

学校・家庭・地域の連携を強化し、「地域の担い手」となるこどもたちが、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要です。

また、児童生徒が地域のイベントなどに参画し、地域づくりの一員として活躍できるよう、地域協育ネットの仕組みを生かしていく必要があります。

### (3) 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

これまで本市では、市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、生涯学習情報として提供を行ってきました。また、生涯学習フェスティバル、聞いて得するふるさと講座（出前講座）や各年齢期に応じた子育て講座などを実施してきました。

今後、さらに市民の生涯学習の機運を高めるため、市民ニーズに応じた学習メニューの提供や、効果的で分かりやすい生涯学習情報の周知などを充実させる必要があります。

また、「人権尊重社会の実現」に向けて、市民ぐるみの人権学習を積極的に推進するため、セミナーや講演会の実施、地域や学校・企業・団体等での学習会へ人権学習指導員を派遣しています。今後、さらに市民の主体的な人権学習を支援するため、様々な方法で周知していく必要があります。

生涯学習の拠点施設となる市立図書館の運営は、平成28年度（2016年度）から指定管理者制度を導入し、サービスの向上を図っています。『防府市図書館サービス振興基本計画』に沿った図書館サービスが提供されているか検証し、今後の図書館運営に反映していくことが重要です。

### (4) 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

本市の学校施設については、平成29年度（2017年度）に老朽化し耐震性のない校舎を解体したことで、耐震化率100%を達成しました。

解体した校舎の建替えは令和元年度（2019年度）で終了し、建物構造体の耐震化関連の工事は全て完了しました。引き続き、外壁改修や屋内運動場の照明器具落下防止など非構造部材の耐震化を進めながら、施設の老朽化した箇所の更新に努めています。

学校施設は、建築後30年以上経過した建物の割合が80.3%となっており、老朽化が進んでいます。『防府市学校施設長寿命化計画』に基づき、建築後40年以上の建物について大規模改修を行い、施設の老朽化対策を進めるとともに、誰もが利用しやすく環境に配慮した、質の高い教育環境の整備を今後も計画的に行う必要があります。

### 3 こどもの状況

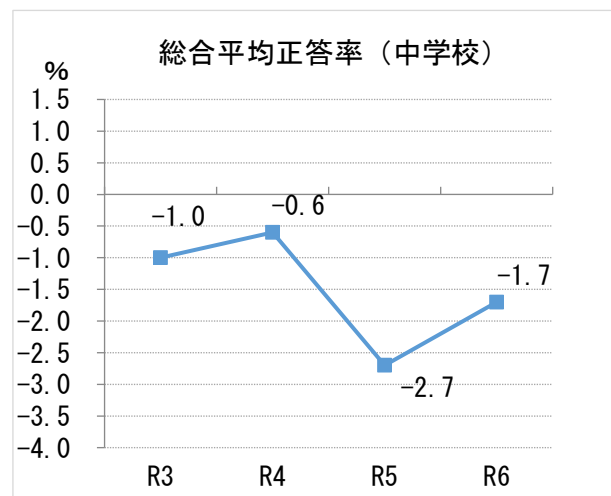
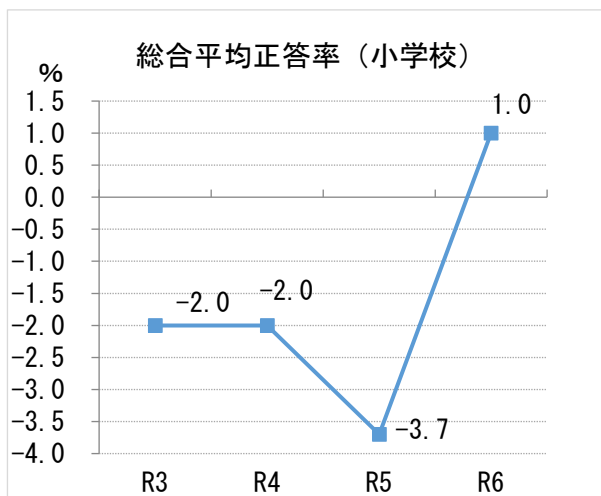
#### (1) 学力・学習の状況

<本市の状況>

- 全国学力・学習状況調査における本市の総合平均正答率は、小学校では、過去3年間は全国平均より下回っていますが、令和6年度（2024年度）においては、全国平均より上回りました。中学校では、直近4年間で全国平均を下回っています。
- 各教科別の平均正答率は、小学校では、国語・算数は全国平均よりも上回っていますが、理科は全国平均を下回っています。中学校では、全教科で全国平均を下回っています。
- これらの結果を基にしながら、学力向上に向けた授業改善を更に推進する必要があります。

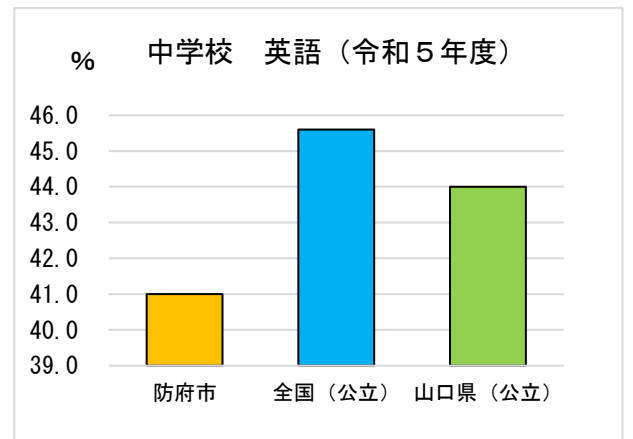
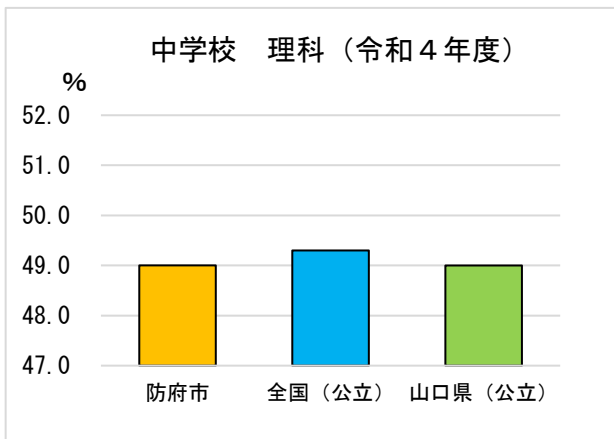
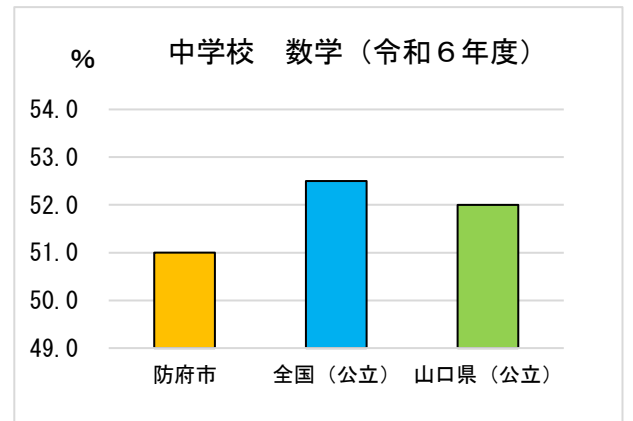
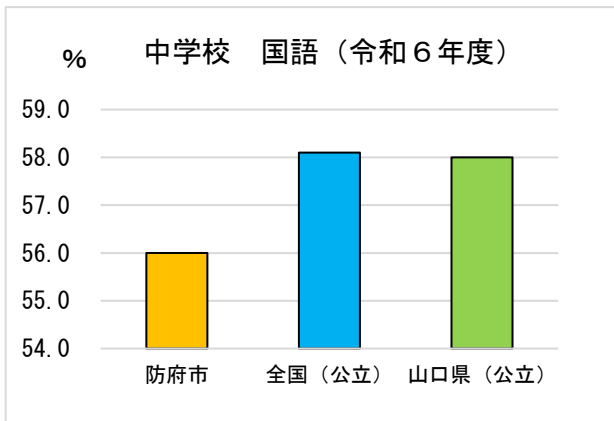
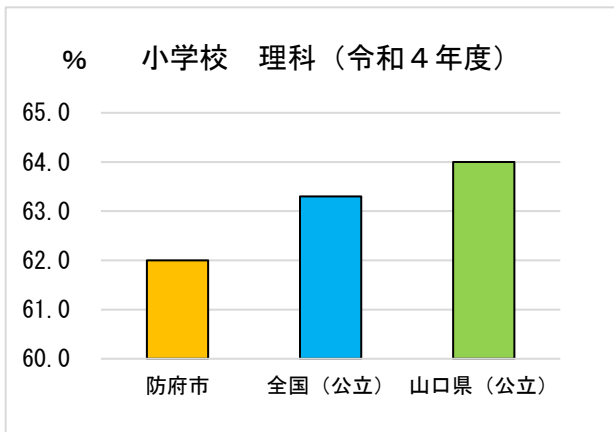
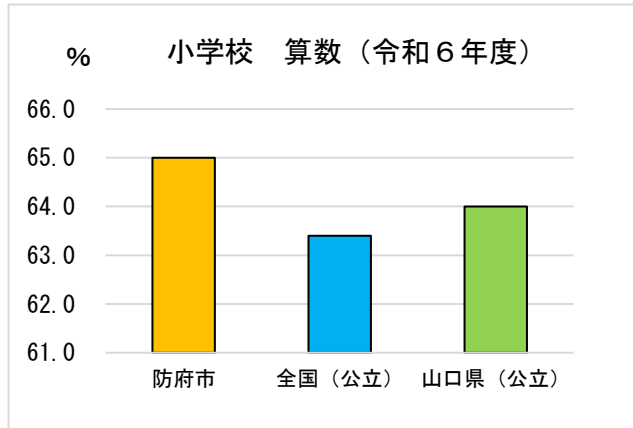
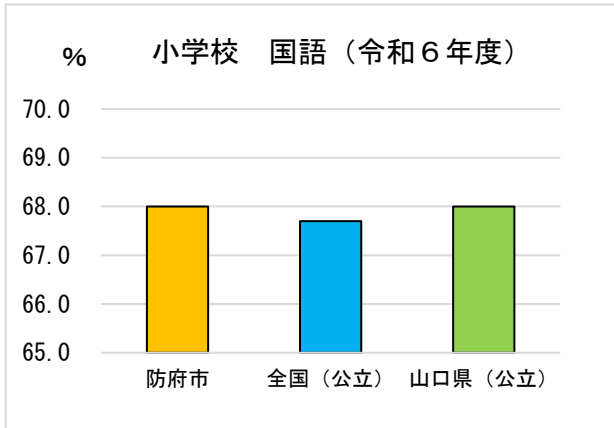
・本市における過去4年間の総合平均正答率【全国学力・学習状況調査】

※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。



## 第2章 本市の教育を取り巻く現状と課題

### ・科目別の平均正答率【全国学力・学習状況調査】

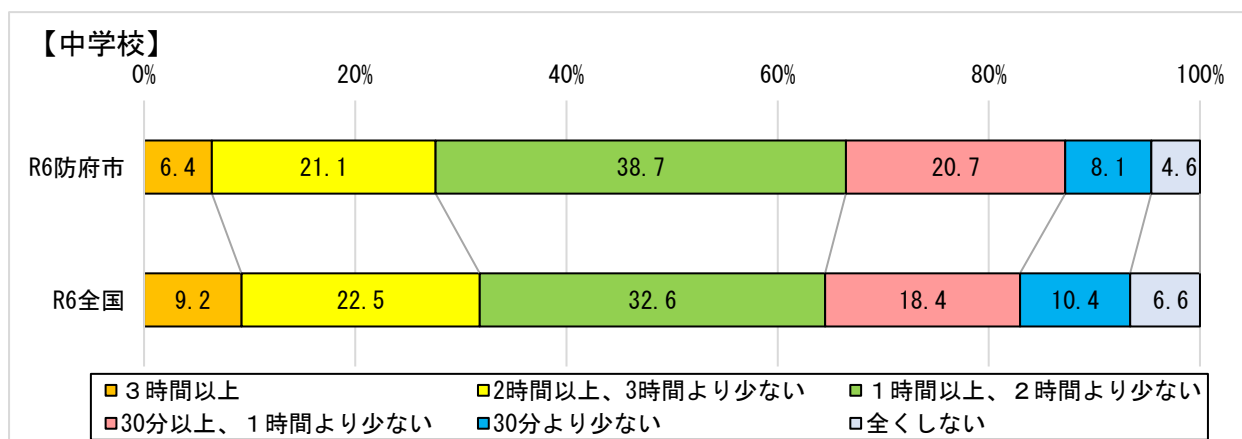
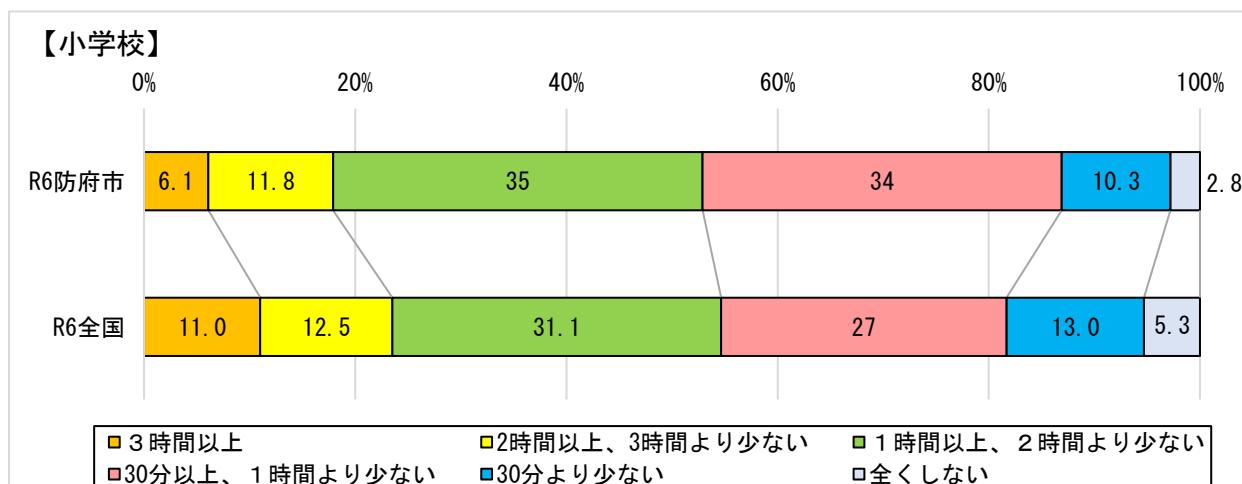


## (2) 学習の状況

＜本市の状況＞

- 「平日に学校の授業以外で勉強する時間」について、「2時間以上勉強する」児童生徒の割合が小・中学校ともに全国平均を下回っています。
- 「平日に学校の授業以外で全く勉強しない」児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っています。
- 学校・家庭・地域が連携し、学校外で学習する習慣の育成や学習の場の確保などに取り組む必要があります。

・学校の授業以外での平日1日当たりの勉強時間【R6全国学力・学習状況調査】



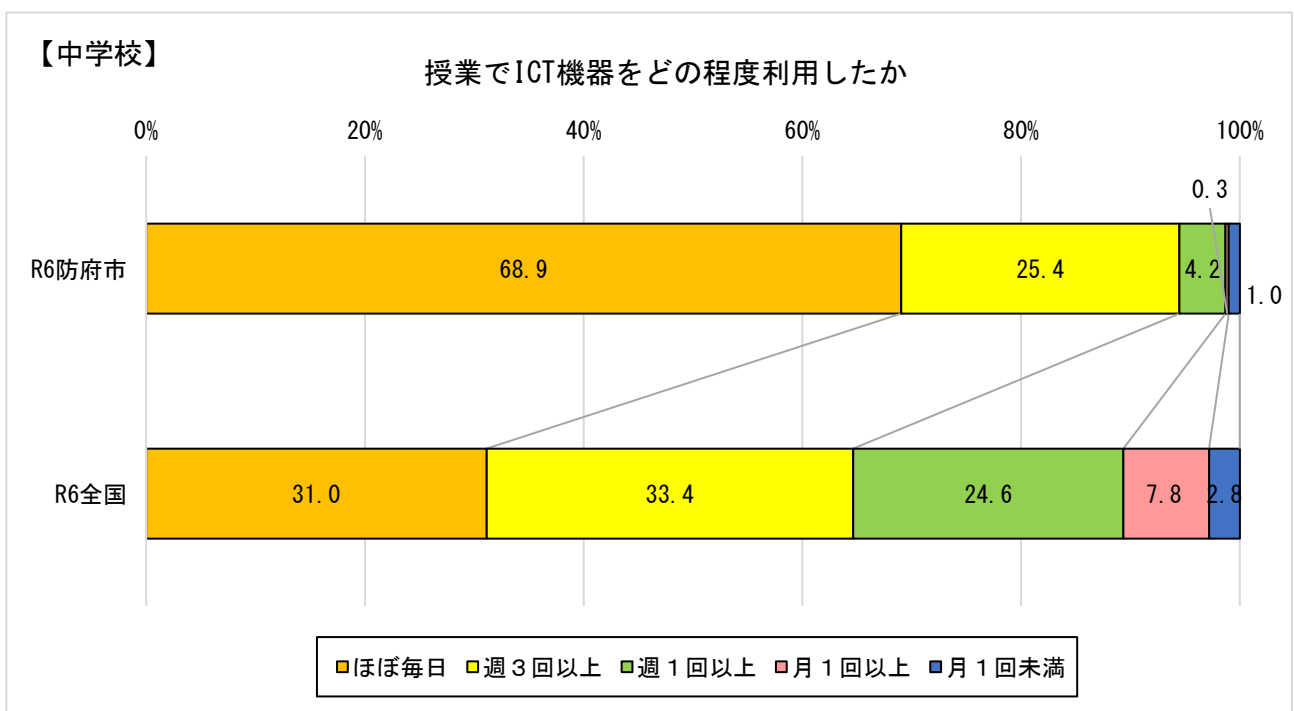
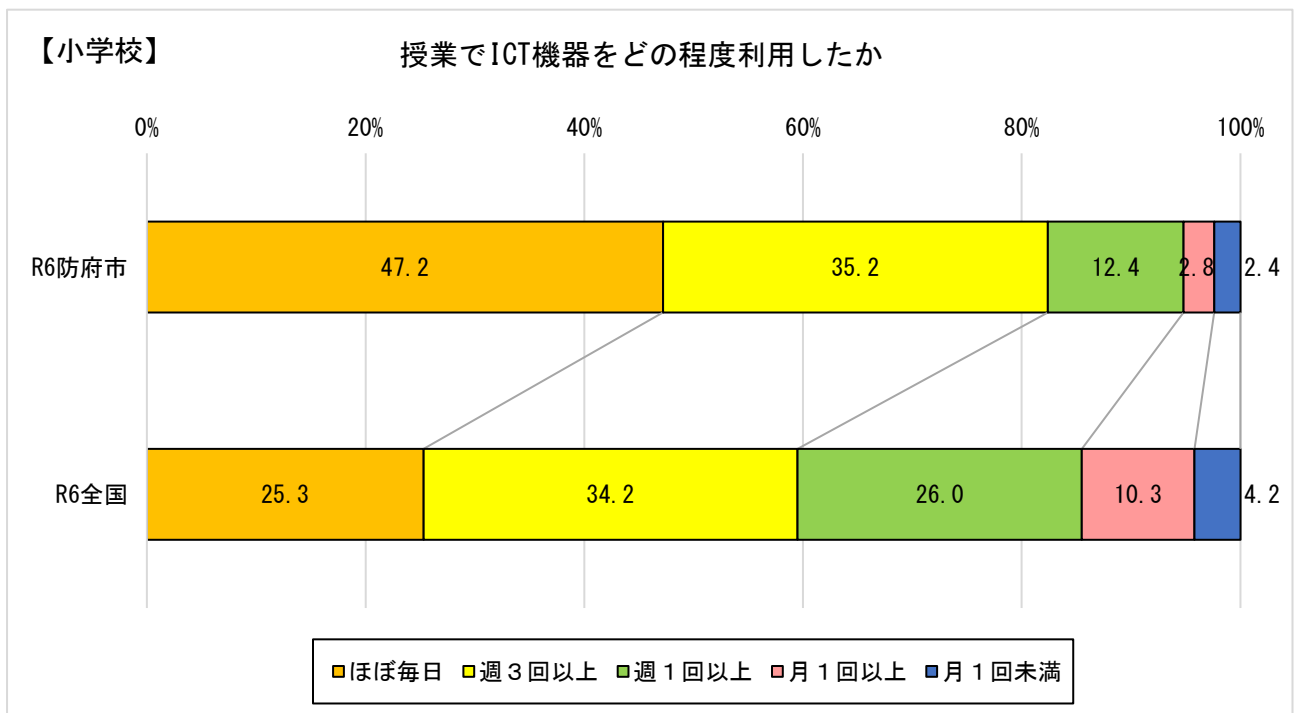
### (3) ICT機器の活用状況

<本市の状況>

○令和2年度（2020年度）に市内全小・中学校の児童生徒へタブレットの配付を完了しました。

○授業でのICT機器の活用について、小・中学校ともに「ほぼ毎日利用している」が全国平均を大幅に上回っています。

・授業でのICT機器の利用頻度【R6全国学力・学習状況調査】



## (4) 体格・体力の現状

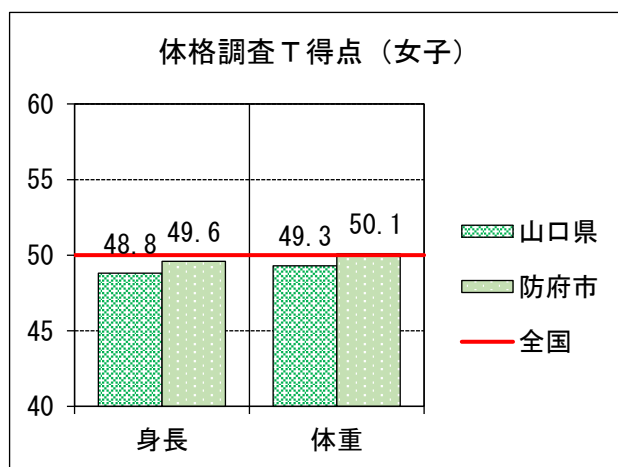
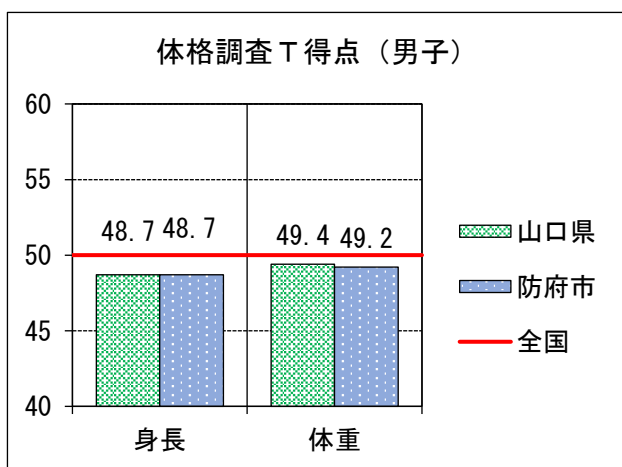
<本市の状況>

- 体格調査では、本市の男子の身長・体重は小・中学生ともに全国平均を下回っています。また、女子については、小・中学生ともに身長は全国平均を下回っており、体重は若干上回っています。
- 実技調査では、小学生の体力合計点は、男子は全国平均を下回っており、女子は上回っています。中学生の体力合計点は男女ともに全国平均を下回っています。
- 体力の現状としては、柔軟性・投力に課題が見られます。
- 体力課題の解決に向けた授業改善を図るとともに、学校・家庭・地域が連携し、運動習慣の確立に向けた取組や運動する場の確保などに取り組む必要があります。

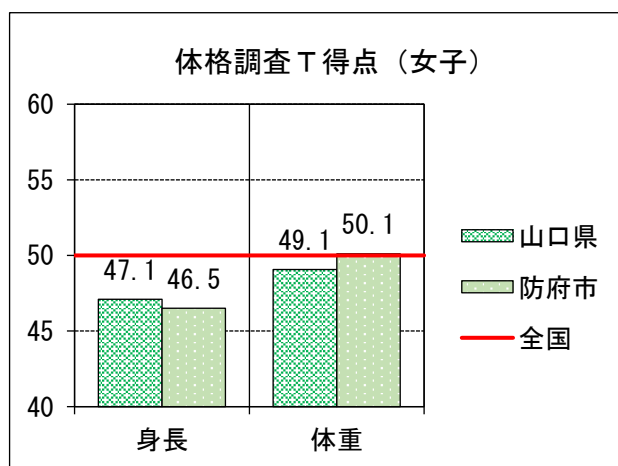
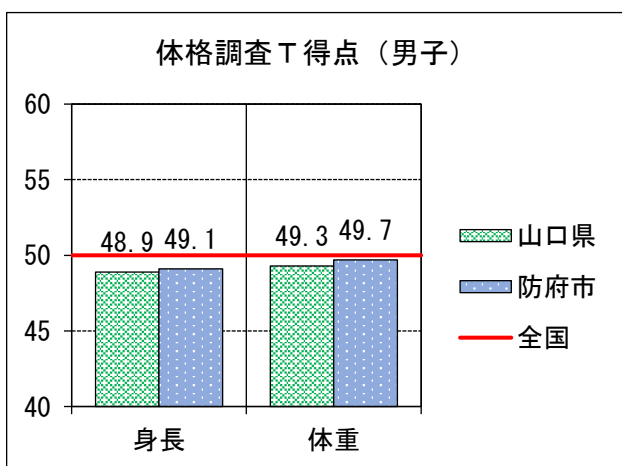
### ・児童生徒の身長・体重【R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

(T 得点：単位や標準偏差が異なる調査結果を比較することを目的として、全国平均値 (50 点) に対する相対的な位置を示したもの)

#### 【小学校 5 年生】



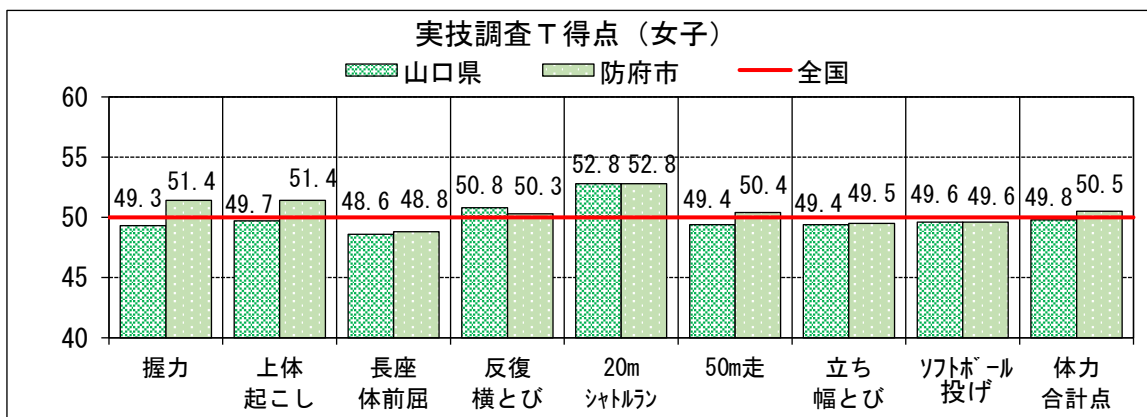
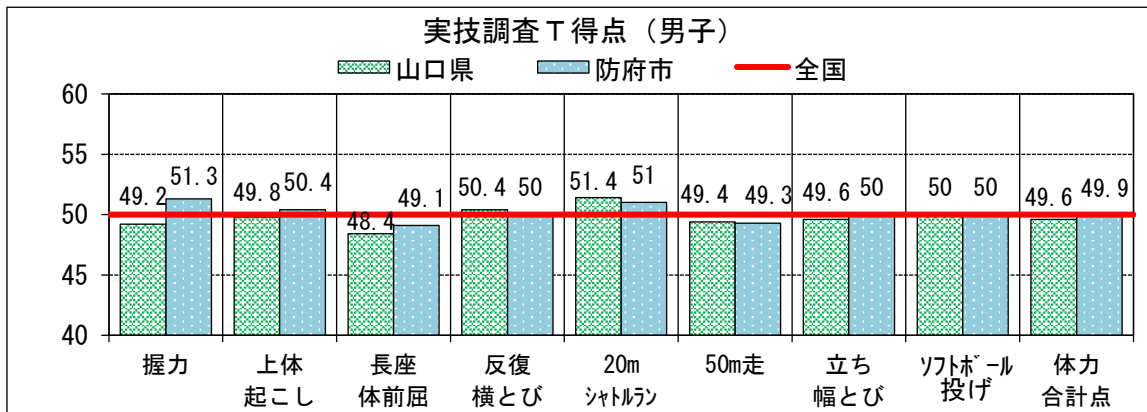
#### 【中学校 2 年生】



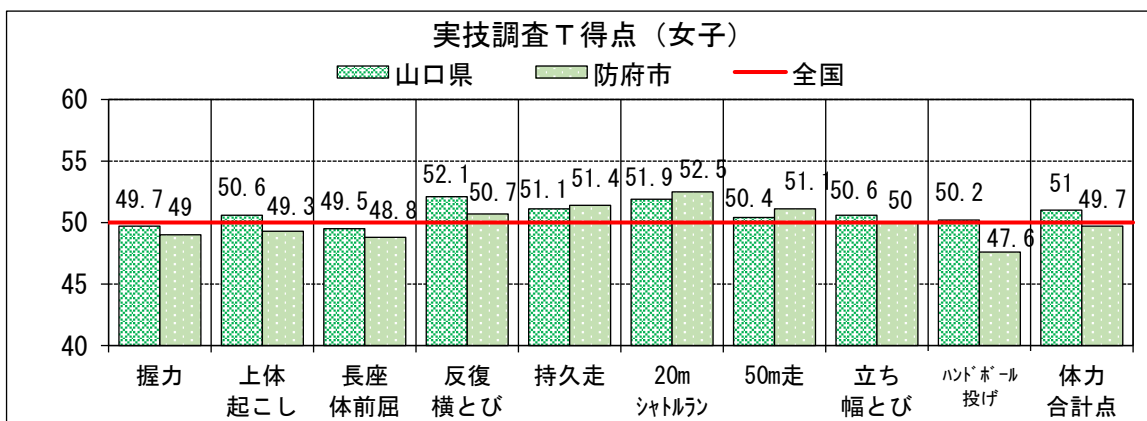
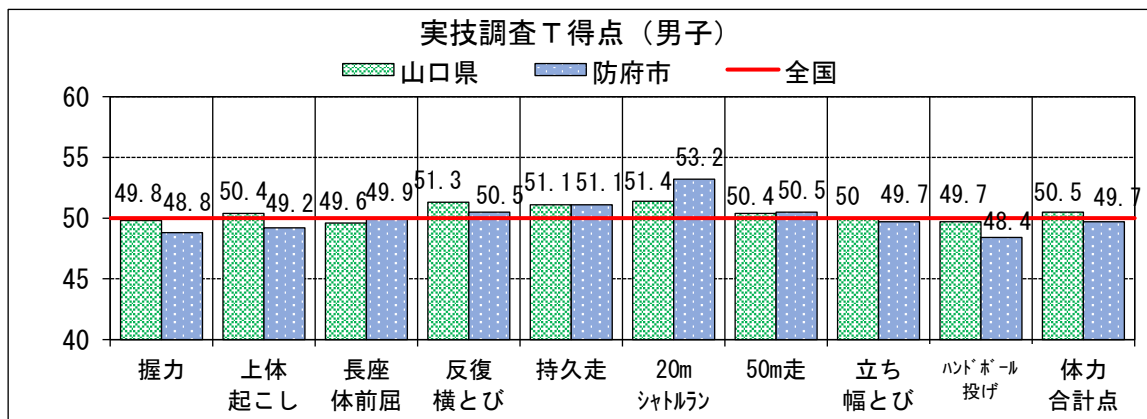
第2章 本市の教育を取り巻く現状と課題

・児童生徒の体力・運動能力【R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

【小学校5年生】



【中学校2年生】



## (5) いじめ・不登校の状況

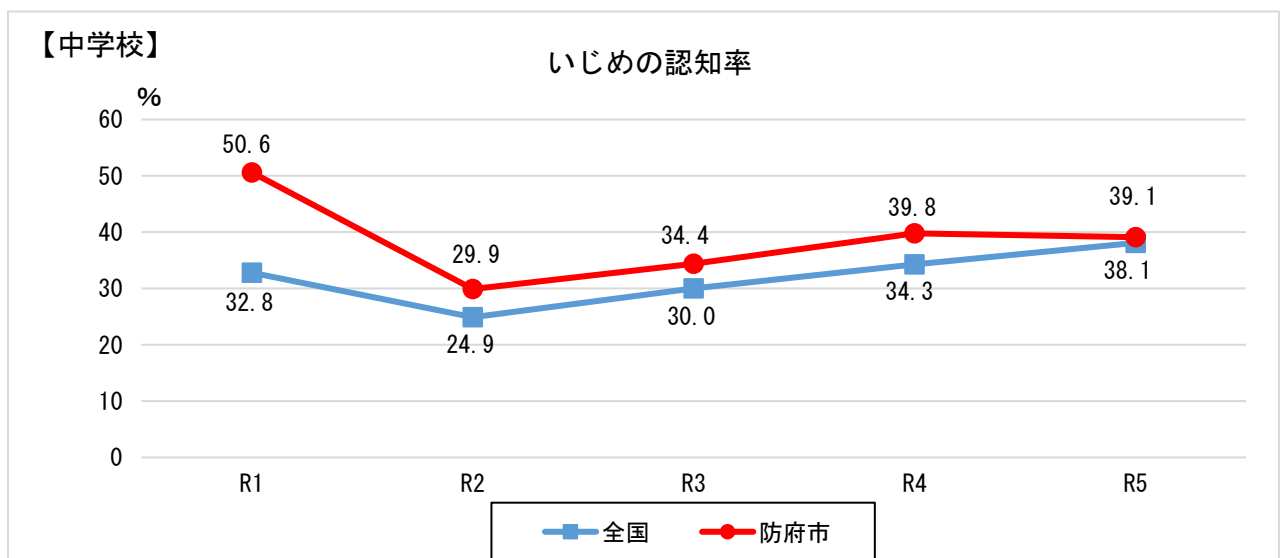
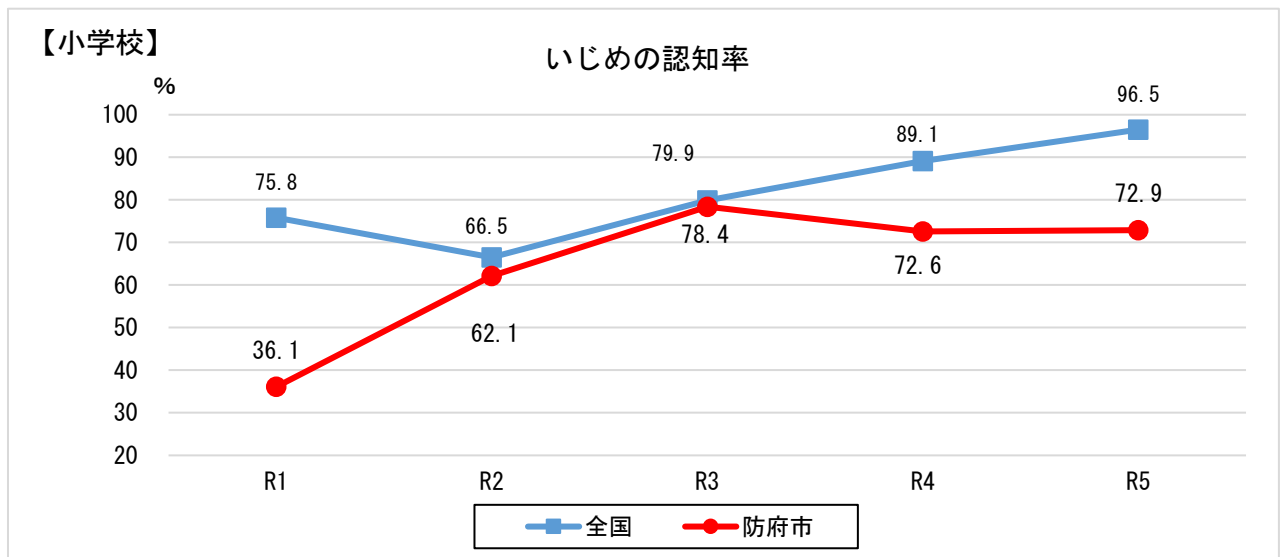
### ア いじめの状況

<本市の状況>

- いじめの認知率については、小学校は全国平均を下回っていますが、中学校は全国平均を上回っています。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は、小・中学校とも全国平均を上回っています。
- 発達支持的生徒指導と教育相談体制の充実により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めるとともに、学校における組織的な対応を充実させる必要があります。

・いじめの認知率【児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査】

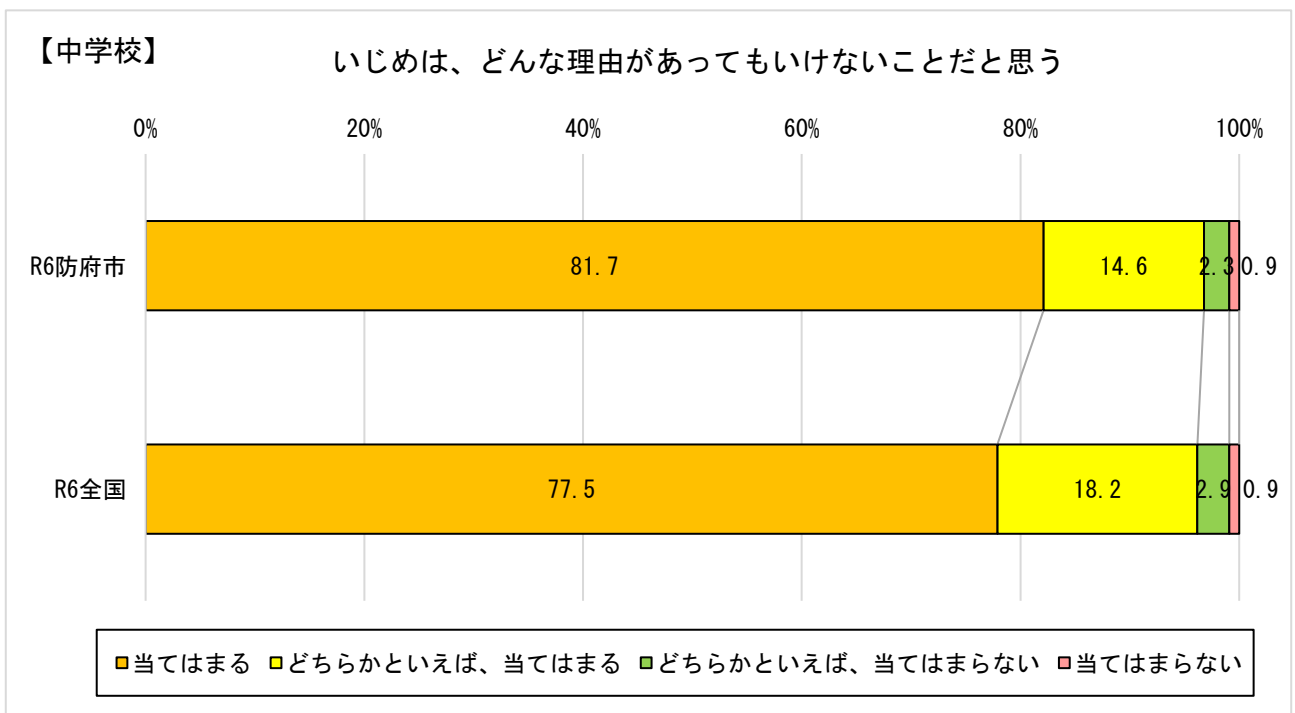
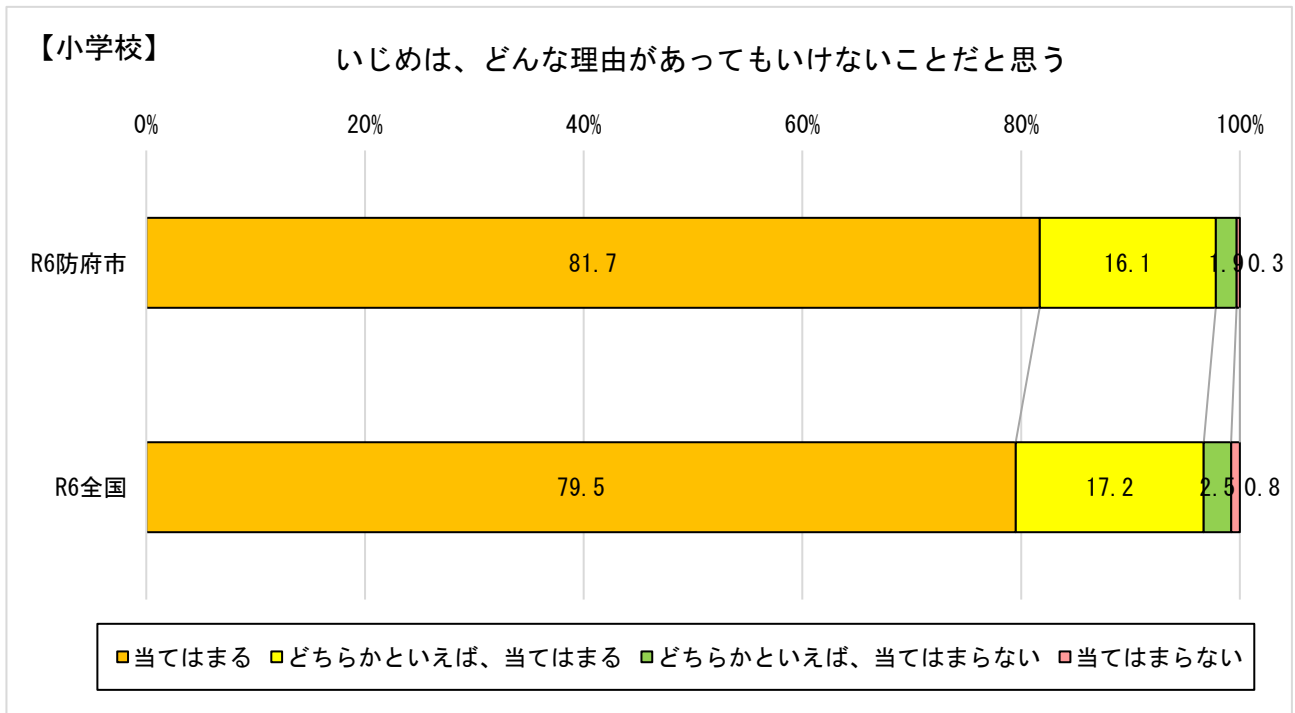
(いじめ認知率：1,000人当たりの認知件数)



第2章 本市の教育を取り巻く現状と課題

・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合

【R6 全国学力・学習状況調査】

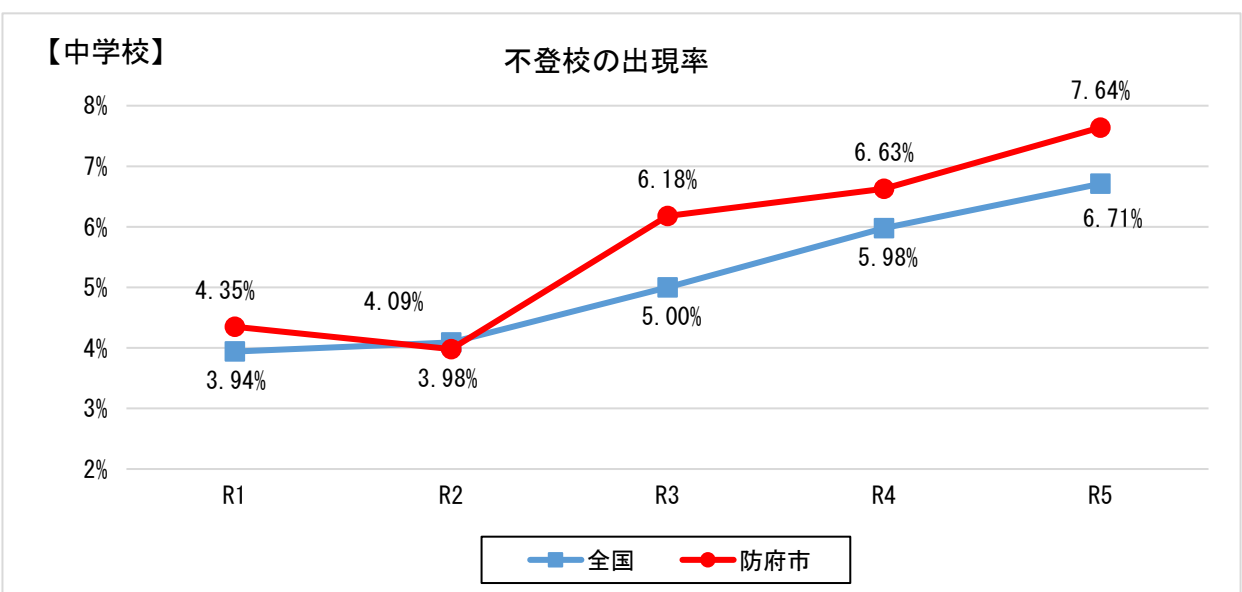
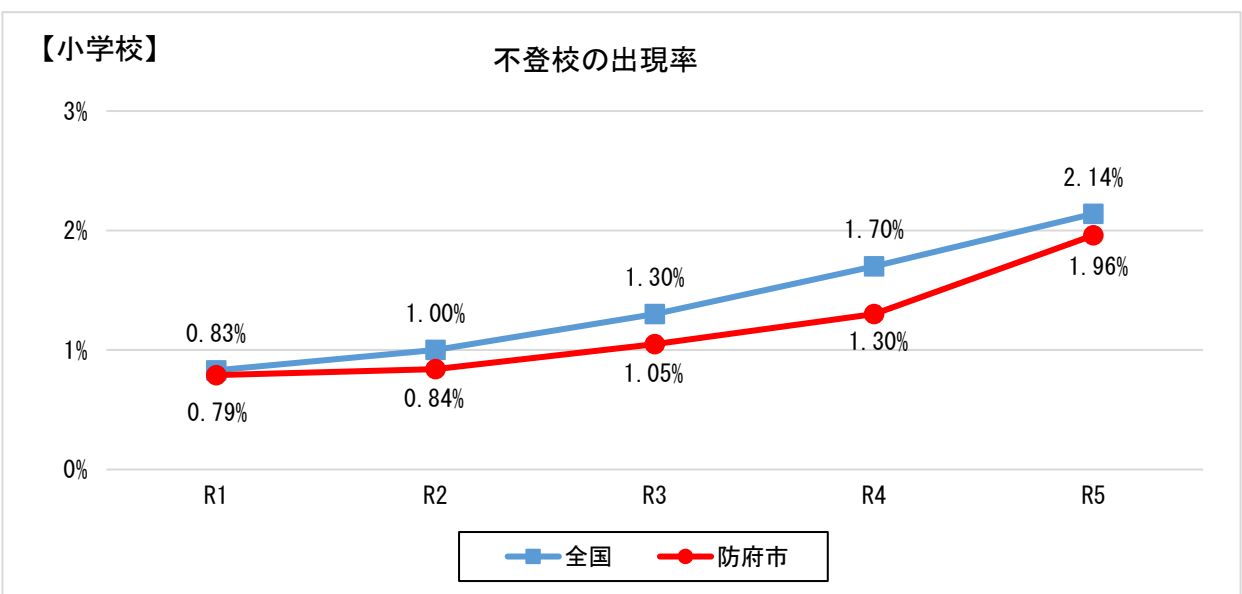


## イ 不登校の状況

＜本市の状況＞

- 不登校の出現率については、小・中学校とも近年増加傾向にあります。
- 特に、中学校での不登校の出現率は、令和3年度（2021年度）に大幅に増加し、全国平均を上回っています。
- 関係機関との連携強化を図るとともに、魅力ある学校・学級づくりに努め、新規の不登校を生みにくい児童生徒の居場所づくりに取り組む必要があります。

・不登校の出現率【児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査】



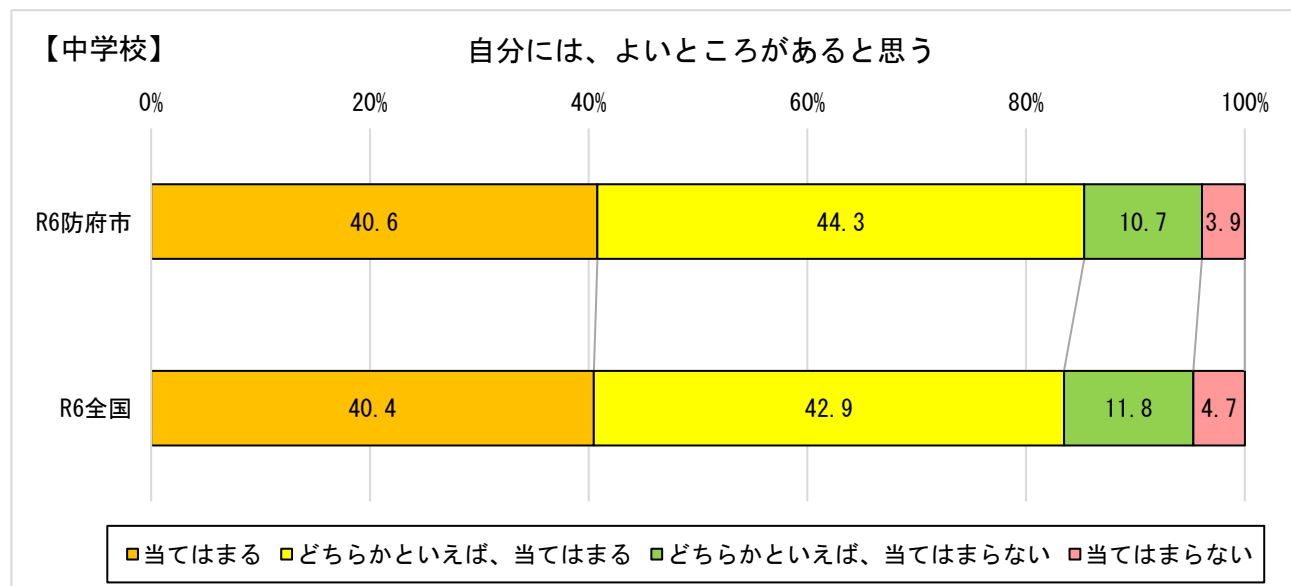
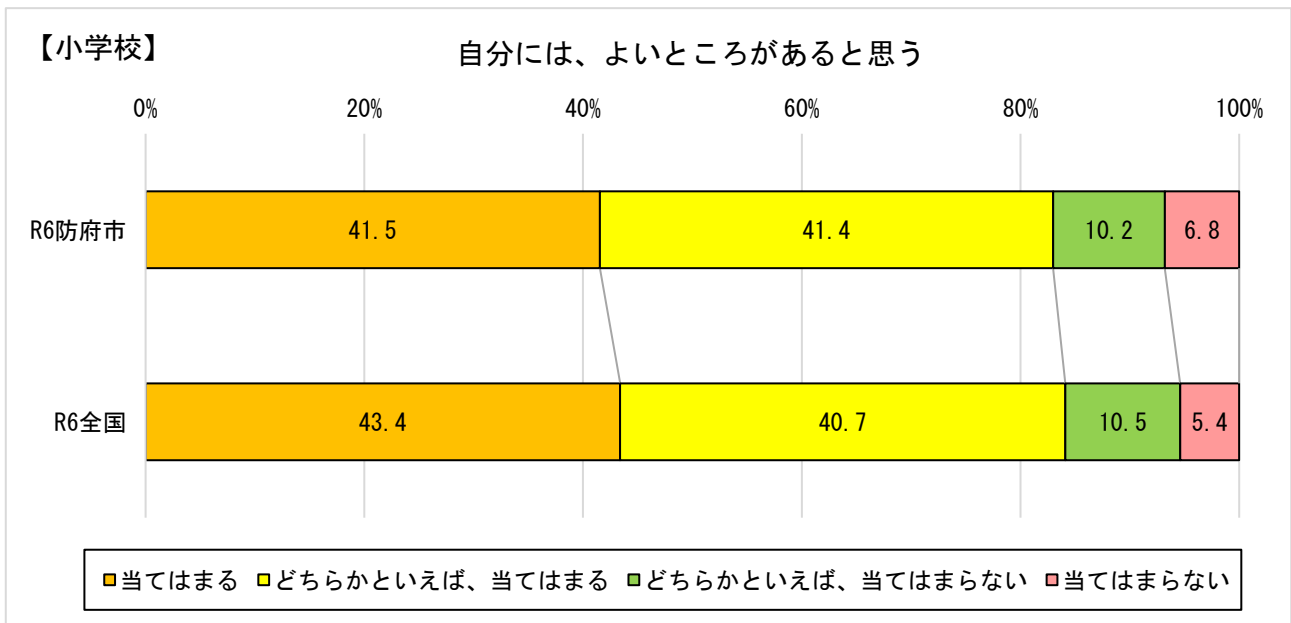
## (6) 意識の状況

### ア 豊かな心

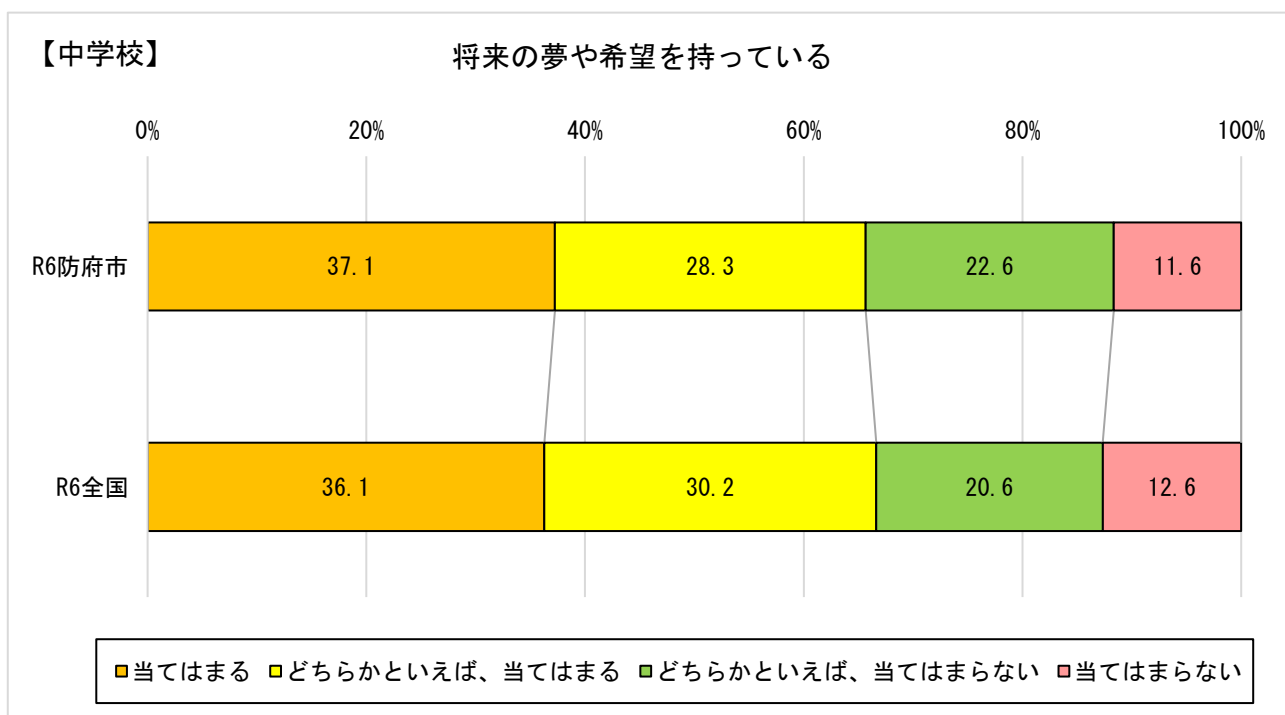
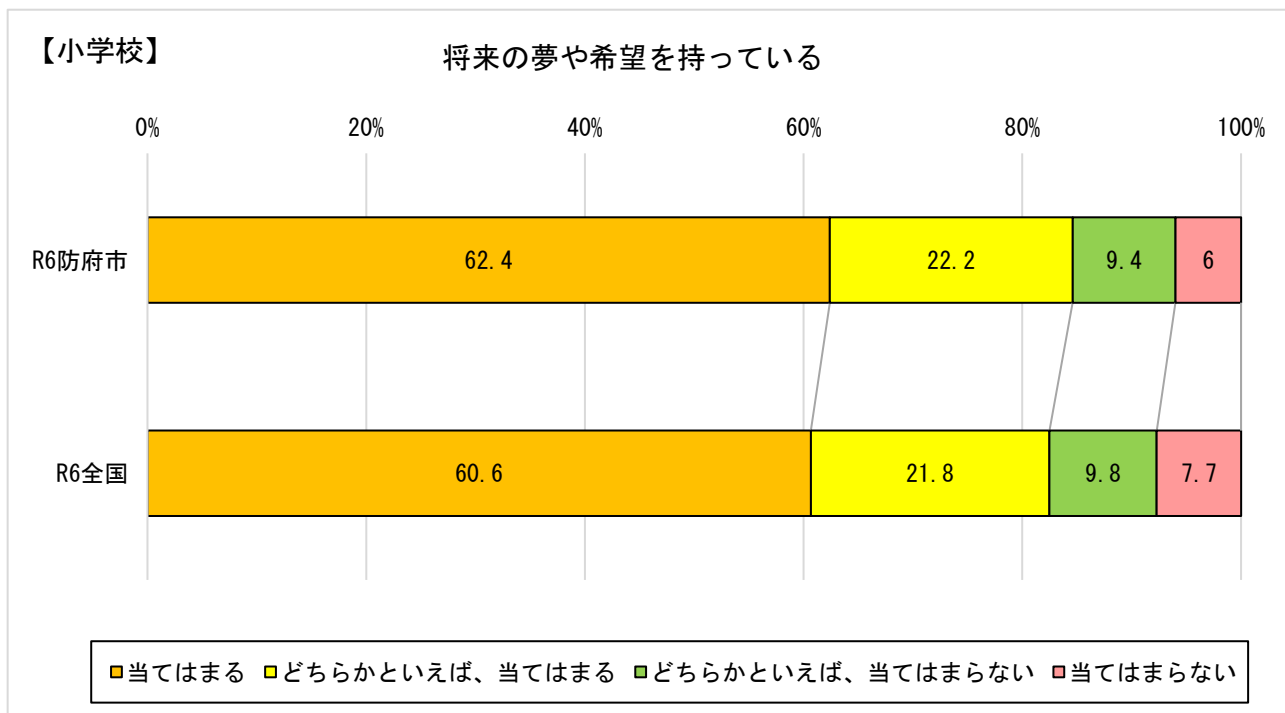
<本市の状況>

- 「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合は、小学校では全国平均を下回っていますが、中学校では全国平均と同程度です。
- 「将来の夢や希望を持っている」児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っています。
- キャリア教育の視点から自己を見つめ、自分や他者のよさに気づいたり、将来について考える活動の充実を図る必要があります。

・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合【R6全国学力・学習状況調査】



・将来の夢や希望を持っている児童生徒の割合【R6 全国学力・学習状況調査】



## (7) こどもアンケートの状況

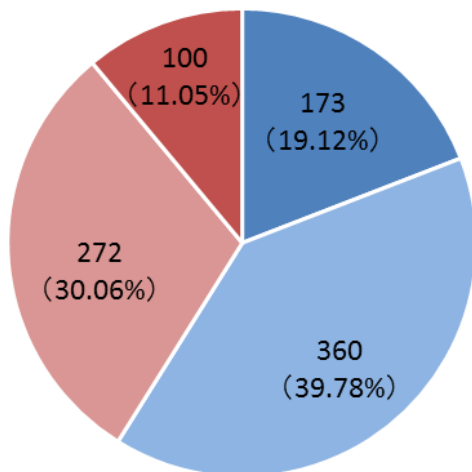
こどもたちの思いを本計画に反映させるため、勉強や活動について「思っていること」について、防府市内の小・中学生にアンケート調査を実施しました。

(対象：防府市内の全小学5年生、全中学2年生【実施結果の詳細は参考資料 P92～100 に掲載】)

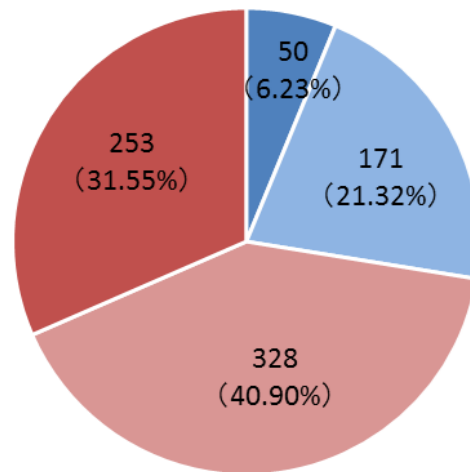
### 【勉強について】

○「あなたは、勉強することが好きですか」という質問に、小学生は約6割が、中学生は、約3割が「好き」「どちらかといえば好き」と回答しました。

(小学5年生)



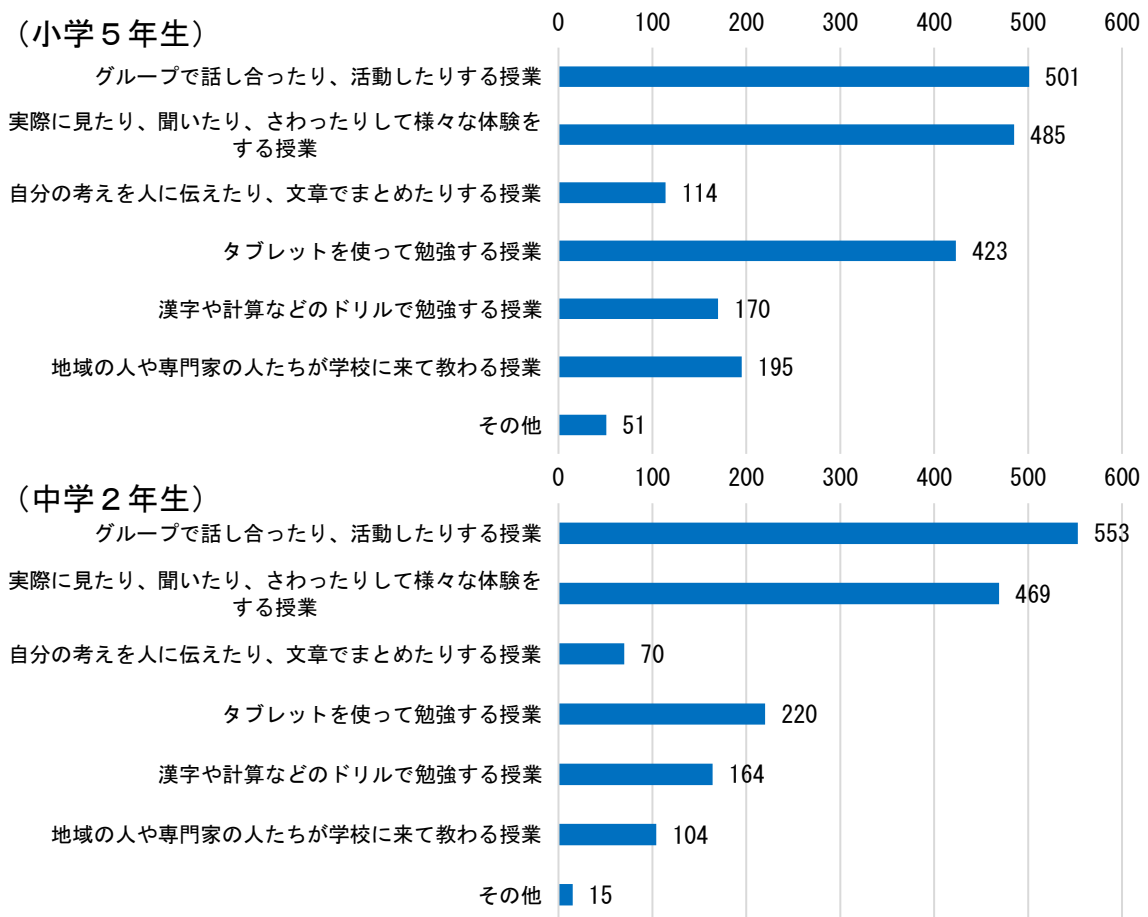
(中学2年生)



- 好き
- どちらかといえば好き
- どちらかといえば好きではない
- 好きではない

## 【学校の授業について】

- 「あなたは、学校の授業でどのような授業が好きですか」という質問に、小・中学生ともに、「グループで話し合ったり、活動したりする授業」「実際に見たり、聞いたり、さわったりして様々な体験をする授業」「タブレットを使って勉強する授業」に多くの回答がありました。
- こどもたちは、グループで話し合うなど主体的に関わって学習したり、体験を通して学びたいという意欲が高いことがうかがえます。これを受けて、こども主体の教育活動が望まれていると考えます。
- また、タブレットを使って学びたいというこどもたちも多く、ICT 機器の効果的な活用が望まれます。
- 小・中学生ともに、「自分の考えを人に伝えたり、文章でまとめたりする授業」の回答が少なくなっています。
- 全国学力・学習状況調査の「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に対して、全国平均と比較して回答数が低かったことと併せ、学習内容や自らの考えを分かりやすくまとめ、伝えることが課題であることがわかります。



【悩みについて】

- 「あなたは、今、なやんでいることや不安なことがありますか」という質問に、小学生は「特にない」という回答が多かった一方で、中学生は「勉強や成績のこと」「進路や将来のこと」で悩んでいるこどもが半数以上いることがわかりました。
- 多くは、母親や父親、友達など相談相手がいるが、「相談はしない」と回答もあり、相談体制の充実が望まれます。

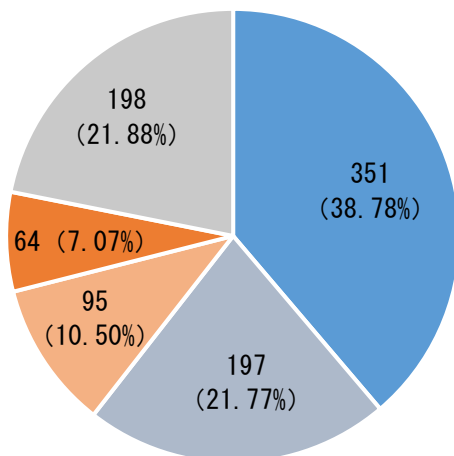
【読書について】

- 「あなたは読書が好きですか」という質問に、小学生の約7割、中学生の5割以上が「好き」「どちらかといえば好き」と回答しました。
- 読書が好きで本を借りるこどもが多く、今後も学校図書館と防府図書館が相互に連携しながら充実させていくことが望まれます。

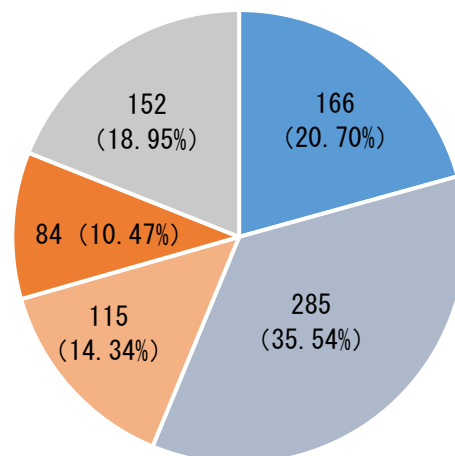
【防府市について】

- 「大人になっても防府市に住み続けたいと思いますか」という質問に、小学生の約6割、中学生の5割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しました。
- 日頃から地域とのつながりを大切にする教育を今後も継続していくことで、肯定的に考えるこどもが増え、将来の担い手として期待されます。

(小学5年生)



(中学2年生)



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない